ＪＲ東海労なごや

2019年6月23日　No.1144
ＪＲ東海労名古屋地方本部
発行者：荻　野　隆一
編集者：教　宣　部

6月23日　沖縄慰霊の日に思う

慰霊の日を知っていますか？

沖縄慰霊の日とは

太平洋戦争末期、日本で唯一地上戦が行われた沖縄で約20万人が犠牲になりました。戦死者のうち、約半数に近い、じつに9万4000人余りの戦死者が、兵士以外の一般県民や子供や幼児だったのです。この沖縄戦で、沖縄司令官牛島満中将ら軍隊の責任者が糸満の摩文仁で自決した日、昭和20年6月23日を事実上の日本軍の組織的戦闘が終結した日としました。しかし戦闘が終わったわけでなく、住民や指揮命令系統を無くした兵士は上陸した米軍から逃れるため沖縄本島南部向かい、当時兵士は捕虜として投降を許されなかったことから住民を巻き込んだ戦闘が続きました。まさに地獄の様相でした。

そのような悲惨な現状を生んだ戦争を二度と起こさないため、6月23日を「慰霊の日」とし沖縄戦の戦没者の霊を慰めて平和を祈る日としました。この日は沖縄県では休日となり、沖縄全土で祈りを捧げます。

戦争の体験者は少なくなるが傷跡は消えない

戦争体験者は高齢で亡くなる方も年々増え、語り継ぐ人も少なくなって来ています。式典でデニー玉城知事は『74年。忌まわしい記憶に心を閉ざした戦争体験者の重い口から、後世に伝えようと語り継がれる証言などに触れるたび、人間が人間でなくなる戦争は、二度と起こしてはならないと、決意を新たにするのです。』と挨拶をしました。口を閉ざしていたお年寄りの戦争体験者は悲劇を繰り返さないため、戦争の悲惨さを語り継いできたのです。私たちは二度と戦争を起こさないため、戦争の悲惨さを後世に伝えてゆかねばなりません。

一方戦争の記憶が薄れてゆく中、沖縄では反対に、戦争の現実といえる不発弾が多く発見されています。年間平均700件以上「処理を完了するには70年かかる」とも言われています。過去には、那覇市の幼稚園近くの工事現場で不発弾の爆発で園児を含む4人が亡くなった事故も起きています。また在日米軍基地の7割が沖縄に集中しています。戦争の現実はなくなっていません。

平和の祭典でヤジ

挨拶に立った安倍晋三首相に、慰霊の式にもかかわらず「うそだ！」「かえれ」などとヤジがとびました。賛否両論はあると思いますが。ウチナーの海を埋められ、山を壊され、アメリカーの飛行機が低空で飛び回るこの現実を生み出している安倍首相に対し、本当にヤジりたいのは、いまだ癒されることのない御霊なのでは無いのでしょうか。